

## 光明第一号

一 「光明」は毎月一緒にとじておきなさい。  
一 友人はもちろん兄弟姉妹でも下女でも下男でも、皆さんの救うべき人はたくさんある。真に活きんとするものは、他の一人を救え。

一 「光明」は一度読んでも解らないかも知れない。二度読め、わかる。三度読め、味が出る。四度五度読め、嬉しくなる。

一 「光明」は雑誌ではない。鼻の先にぶらさげる学問のためなら読まないがいい。

## 巻頭の叫び！

一 嬉しい一日が来た。今日もまた働こう。今日も嬉しいたくさん仕事がある。世のため人のためになる仕事がある。

一 辛い仕事ほど面白い。自分の努力がたくさんいるから。自分のする行いを人が見てもいい。見なくてもいい。自分の心だけは知っているから。

一 善い事を一つすれば、自分のつとめを本気ですれば、それがどんなに、大きなよい結果になるかも知れない。いくら小さくても、悪い事を一つすれば、それがもどでどんな大きな悪いことが起るかも知れない。

一 自分等には強い体と、健全な心とがあるから嬉しい。たとえ病気でもうれしい。心が健全で世のために人のために祈られるから。

一 自分の心が悪いのに、人の悪いことを言っているだんではない。人の事を悪く言うのは、それだけ自分が悪くなっているからだ。

一 ああ、うれしい。一日中自分のすべきことを皆してしまった。楽しい明日が来るまで安らかに眠ろう。

皆さん日誌をおつくりなさい。そしてその表紙には「光明」と書き、第一頁の前に書いてある六ヶ条の通りを書いておいて、毎日、朝と夕二度づつ読んでごらんください。日誌には毎日した、よいことわるいこと、その日の気分を書くのです。

## 鐘の響

もう朝の九時になります。小使いの野田は槌を持って、鐘の側に立ちました。「カンカンカン………」と勢いよく学校中に鳴り渡ります。

「あれ見よ、この鐘ひとつ鳴りさえすれば、数百の子供はみな教室に入る。そして、字も習うだろう。算術も学ぶ。人間になる話も聞く。そして、彼らはみな不智から光明に、悪から善にうつり変わって行くのだ。この鐘一つで時間も間違えず……ああ尊いこの鐘！ 若し、五分鐘をちがえたら三十時間の損になる。本気で打とう。」と、自分で覚めた野田の心の内には、自分を忘れた尊い光が頭に一杯になろう。

夕方になった。お寺の小僧が大鐘の前に立って、「ゴーン」とついた。又一つゴーン。「ああ、この鐘の響きこそは、久遠劫来衆生助けたさのみ仏の尊い慈悲を今晩も来て聞けよという知らせだ。み仏様の仕事のお手伝いだ。これを聞いて、今晚参詣して、悟りを開かせてもらおう者があるかも知れない。あの響きは、山の上の老いたお婆さんの耳にも入ろう。あの家の非道な爺の耳にも入ろう………」と悟った小僧さんは、心の歓喜に涙ぐむでしょう。

覚めよと言うのはこの事です。鐘をつくのが何で辛いでしょう、大儀でしょう。鍬をもち、鎌をもち、鍋をもち、水をくむのが何でしょう。もつのが嬉しいのです。骨を折るのが愉快なのです。「つまらんなあ、朝から晩まで鐘を打つても何十銭にしかならん。本気でやれるかい」「毎日毎晩半鐘打つても志のおれが取るのは少ない。本気で打つのも馬鹿らしい。」と思う小使いや小僧は気の毒なほど不幸なものでありません。

小僧ばかりではありません。そこらあたりの多くの人は大抵こんな不幸な人の集りであります。覚めた人は楽しい。そして、覚めた人の行いほど尊いことはありません。「水をくむのは冷いけどご飯をたいて、おかずをつくらなければならん。食物は命の杖である。この食事をすればこそ夫も外で働ける。子供もこれで大きくなる。一家の者の命は私がああずかっている。」と自覚して米をとぐ妻の心で「どうでもいい、早くしてやろう、ああ寒いのに。」というさもしい心が起きるでしょうか。

若い諸君よ、兄弟よ、仕事をするのなら覚めて、幸福に働こう。仕事のない者は一人もない。覚めないなら死んだがいい。

若き同胞よ (一)

一、吾等は光栄ある青年である。

皆様よ僕らは青年である。帝国の将来がどんなになるのも僕等の行動如何にあることだ。僕等には、社会人類の幸福を進める義務もある。日本帝国の先づきをして、一層強く美しくすべき義務もある。君のため国のために命をすつべき時もある。自分の一家をおこし、自分の智能をみがき、精神修養によつて、人格の向上等数えきれないたくさんな仕事がある。僕等の心の中には、大を求め善を求めんとする心、すべてを愛せんとする熱情がもえている。目的に向つては万難を排して突進しようとする意気がある。悪い者をこらして弱い者を助けようとする義侠心もある。

僕等が力を合して事にあたればどんな大きな事業でも出来よう。僕等の体の中には、赤い赤い燃える様な血が流れている。どんなことでもいとわないう元気がある。僕等は努めさえすればどんなにでもなれる。嗚呼、この心この体を以て将に人生の大海に出ようとする青年には、何物も及ばない光栄がある。

二、青年の前途は未知数である。

僕等は今人生の出発点に立っている。進むべき道は、数十数百に分れている。どの道にでも行かれる。一生涯人の厄介になる乞食にでもなれるし、一国の大臣にでもなれる。人を救い世を救い尊い道にも進めるし、悪魔となつて進むことも出来る。僕等の前途はわからない。一家を立派におさめ夫を助けて、事業をなさしめ、子供の教育を完全に、幸福な一生を送る婦人にでもなれるし、虚栄心に走つて、一生をあやまり、年老いて人生の不幸に泣く婦人にでもなれば、泣いたり怒つたり愚痴を言つたりして、一家の和樂や幸福をこわす厄介な女にでもなれる。

皆さんよ、太閤殿下と言われた秀吉にも草履取りの青年時代もあつた。左甚五郎の様な立派な大工でも穴ほり大工の青年時代もあつたのだ。下男であつた青年が村で屈指の金満家ともなれば、教育もない一職工から身をおこして、今は高等教育を受けた者を使つて大事業をしている数十万円の請負業者(僕の村の人)もいれば、小使から身をおこして、大臣になつた者もいる。僕は必ずしも金や位が尊いというのではないが、あの様に青年時代の者の前途は未知数である。尊き青年よ、諸君よ、今何を考えている。

三、理想は富か位か名譽か樂か。

僕等は今人生の出発点だと言つた。それなら僕等はその行くべき道を定めなければならぬ。諸君は心に決めてあるか。どちらに行こうか。城の様な家を持つた大金持になりたい。正何位勲何等と肩書のついた人になろうか。世の人がうやまつてくれる名譽の人になろうか。一生涯樂の出来る人になろうか。女子の人なら、金持ちの家に行きたい、身分の高い人の妻になりたい。樂な、体に骨のおれないところに行きたい等、色々な目的がある。

しかし諸君よ、考えちがつたら駄目である。誰でも金も欲しい、位も欲しい、名誉も欲しいと思つてゐる。しかし、それは決して、自然に出来たのではない。誰かが働いて、働いて、貯めたから金持ちがいるのだ。国家に功労があるから位がついたのだ。世のために人のために尽くしたから名誉があるのだ。これを一言で言えば「努力」だ。努力すればきつと何かを得られるのだ。人は皆職業がなければならぬ。職業には、農もあれば商業も大工も左官も石工も官吏も数えきれないほどあるが、どの職業とて、尊い賤しいは決してない、そんな職業があればこそ世の中は立つて行くのだ。ただ尊い賤しいがつくのは、その職業に目ざめて働くかどうかにあることなのだ。食うに困る貧乏人からしぼり取つて金をためる金持ちより、清く正しく働く貧乏人がどれほど尊いか知れないし、京都市にあつた様に、悪いことをして監獄に行く高い月給取りのお役人よりも、汗と脂で米をつくり出すお百姓の方がどれだけ尊いか知れない。

だから職業は何でもよい、め、め、め、てやれば、どんな職業でも尊い。「職業につくのは食うためだ。」という考えはまちがつてゐる。職業を持たない犬や猫でも食つて行くのではないか。僕等が職業を求めるのは、如何にして人のため世のためにつくそうかのためである。世の人はまちがつてゐる。もし自分のためばかりにという「利己心」から職業につくものは、きつと世の中に害を及ぼす者である。又そんな人は決して、成功するものではない。僕等はただ正しい心で、自分の職業に努力すれば、そこにはきつと何物かが得られる。

諸君よ、金や位や名誉に目がくれてはならない、何処に行つても諸君はただ如何にすれば、世を益し、人のためになるかを考えなければならぬ。ただ努力せよ努力せよ。

## 白粉のはげたみにくさ

女子の皆様、女子はいつたい誰でもどうかして自分を美しくしたい、人にもきれいなと言ってもらいたいものらしい。そうです、皆様は美しくなければなりません。美しくしようと思つて、着物も美しいのを、帯もはでなのを、半襟もひき立つのを、顔にも白粉を紅をと、大抵の女子は一時も忘れていないらしい。

しかしながらよく考えて見ると、いくら着物が美しくても、それは着物が美しいので、それをつけた人が美しいではありません。着物の美は遂に着物であつて、人の美ではありません。紅白粉の美は皆さんの顔が美しくなつたのではなくて、紅白粉の美です。

皆様には天から授かつた美しい体があるではありませんか、きれいな赤い血の通つている顔があるではありませんか、美しい髪があるではありませんか。涼しそうな可愛らしい目があるではありませんか。もうそれで十分です。それがほんとに美しいのです。うれしい時の皆様の目の光、やさしい心のおきた時の皆様の頬、気の毒なと同情した時の眉、こんな美しいものがどこにあります。

### 『玉耶経』に

「女人の法、容顔の端正なるものを美人と名けず、ただ心行端正にして人に愛敬せらるるものを美人と名く」と言つてあります。

婦人は、顔かたちが美しいのが美人ではありません。心が正しくて、やさしくて、人に愛せられ敬われるのがほんとうの美人です。三日月の様な眉、高い鼻、小さい口もと、そんな顔にお白いのぬつてあるいわゆる世の中の美人が、おそろしいほど怒つたり、気にいらなと言つて泣いている顔より、色は少しくらい黒くても、鼻は少しくらい低くても、心からあうれしいと笑つている顔の方がどれくらい美しい知れません。皆さんの心が正しくて、常に美しく、それが顔に出たとき、皆様ほほんとうの美人になれるのです。皆さんは、心から清い清い愛に醒めて、愛する喜び、それから、常に、心を恭しくもつて、ほんとうの美人になることに心掛けましょう。白粉をつけて美しいと思つて出たとき、帰つて鏡を見てごらん。皆さんは自分ながら嫌になるほど白粉のはげた醜さを知るでしょう。それ以上を申しません、くれぐれも眞の美人におなりなさい。

愛は女子の生命である！ 愛は人生を美化し浄化するー。(一)

貴女を今日まで大きくして下さったのは誰のおかげでしょう？ 父母の慈悲たるや言うまでもありません。貴方のお母さんは唯もう貴女が可愛いのです。理窟も何もなく愛したいのです。皆さんが幸福になれば飛びたつ程嬉しいのです。貴方が不幸なときには、自分の不幸よりもまだ悲しいのです。真の愛であります。「絶対の愛」であります。絶対の愛とは自分には都合がよくても悪くても、どんな時でも仇敵となつても変らない愛のことです。貴方の親の愛は即ちそれであります。われわれがもっている愛はそれとはちがつて、自分に利益になつたり、便利の好い時だけの愛であります、人が親切にしてくれるときだけ愛するのです、一度自分がいやになればすぐ愛するかわりに敵になる愛です。この愛は「相對の愛」であります。相對の愛には力はありません。絶対の愛の力です。

愛に覚めるとは、絶対の愛の力を知つて、絶対の愛の持ち主になることです。我等はまず親を愛せなければなりません。兄弟姉妹を愛せなければなりません。世のすべての人を愛せなければなりません。私等の恩人を愛せなければなりません。友を愛すると共に、敵をも愛せなければなりません。

愛の力！ どんなに大きなものでしょう。釈迦の愛の力は世界中に三千年後の今日迄流れています。到る所にそびえてゐる寺。あれは一切の衆生を救いたいやるせない釈迦の愛の血の流れでなくて何でしょう。キリストも愛のためには十字架の上ではりつけになつても何でもなかつたのです。彼の愛の力は、はりつけになつた後までも人を救うことに使われたのです。実に愛の力は、悪い人の心をも善に立ちかわらせ、不幸に泣く人をも幸福にみちびきます。ナイチンゲール嬢の偉大な愛は、露土戦争に、兵士の看護の思い立ちとなり、それが今日の赤十字社のもととなりました。世界中の敵も味方も平等に救う赤十字社には、ナイチンゲール嬢の尊い愛の力が伝わっています。

貴女よ。貴女の心の奥にはこの尊い愛の泉がこんこんと音を立ててきれいに流れてゐるのです。一度口を開いたらいくらでも流れて来ます。そのまゝを、世の人にはもちろん、動物や草木にまで飲ましてやるのです。愛の水を飲んだ時だけ人間はあゝ有難いと心から感謝します。ああ、貴女はなぜこの尊い泉にふたをしています。貴女が何物よりも尊く誰よりも幸福になることが出来るのは愛の力の表われた時です。私は力一ぱい教え子に愛の注がれた時最も幸福であります。(つづく)

□ 鹿島の「君に。君の手紙中に「社会の生存競争のはげしいことは申すに及びませんけれども、この世の中に金がなくてはとても楽をすることは出来ません。しかし目下のところ色々な事情で苦しい生活を続けている人は僕一人のみではありません。『金がなければ働いて取れ、出世したくば努力勉強せよ』と色々な人から申して下さいましたが、私は今日までは、どうしても出来ないものだ」と決心していましたが、世の中は努力で渡って行かれるものであります……云々」

そうだ、君には将来に対する目的があつて、それに向つて努力すればよいのだ。「志は天に届け、手は地をかけ」これだ。男子の一生は奮闘又奮闘、努力を外にしてはなないのだ。君には君の目的以外に、人に使われるという今一つの務めがある。人を使うこともむずかしいが、人に使われることはなお困難だ。人は人に使われる間にならぬのだ。昔からの成功者は、真に、人のために使われて、人になつたのだ。君は書生中の書生として、主人のために働け。ただ将来への理想は常に心中にもえていなければならぬ。君の兄が「汝は、汝の家を再興すべき義務がある。汝一身を立つべき義務がある。汝が世に処するには、大海を小舟によつて、永い月日を渡ると思え……云々」君はこの兄の言葉が常に君を叱咤しつたしていると思え。そこには必ず一切の苦痛が楽しみと変る大なる力があるろう。君が頼まなくても君は大変な友だ。世の中に害をし、僕を仇敵とする者でも友だのに。君は努力の人となつた。君の義務はそれだけではない。知人を救え。そして、その努力の味を知らしめよ。

男子の方も女子の方も百字位ですむ様な投書をどしどしして下さい。名は号や別名でもいいです。

又皆さんが一人で考えてわからないことなど書いて送れば、お答えいたします。お疑いがおきても同じです。

投書は皆さんがたのお互のおたよりでも、或は、皆さんのうれしい心持でもよいのです。

布の「小鳥」様に御答えします。

「自分の努力でかち得た精神的なあるもの」ということですね。世の中ではつまらない人間や、悪いことをする人間でも富を得てその日その日を安楽に暮す者もあります、又普通の能力と学資さえあれば学問も出来て、正何位とかの位も得ることは出来ます。しかし、その財産や位のある人間だからと言って少しもあてにはなりません。海軍中將の高きから、監獄に入った松本某という人間もいます。ただ然し、何も知らない山の中の婆さんでも、小さい時からの心掛で、「人様の物に手をかけてはならぬ」とか「わしは悪い人間じゃ。よい方につとめましょう。人には親切に、み国のためなら一人息子でもさゝげます。」こんな風に、徹底的な罪悪観をもつて、人生は人のためにつくすべきだと悟つた人があつて、楽しく暮したとすれば、これ即ち、彼は精神的にかち得たものがあるのです。これは一例にすぎません。人間は精神に何かああ足ら

ない何かほしいと思つて努めれば、きつと得られます。皆様は金も得なければならぬ。又一方精神的にも何か得ようと思つて光明団に入ったのです。

次に「何ものにも動かされない信念」貴女が世の中に立つて行く時、貴女一人が正しい道を踏もうとし、外の九十九人は皆間違つた道に行こうとした時、ただ一人でも私は正しい道に行かねばならぬとそれに進みます。それははなはだ尊いことです、ところがその為に、九十九人は、皆貴方の敵となりました。その時、貴方は天をも恨まらず不幸をも嘆かず、あくまで正しい道を進み得る刀となるもの、それが信念です。わかりましたか。

## 後記

光明団生るゝ僕の様につまらない人間が、こんなことをはじめたのに、たくさんな人が集つて下さつた。何という嬉しいことでしょう。

○鉄筆を取つて、机にもたれていますと夜が更けているのも忘れて書きます。次の室からは微かないびきがきこえます。あゝもう十二時だ。これで筆を欄きましよう。

○これが皆様の手に入つて新しい心で新年を迎えられる。何と気持ちのいいことでしょう。光明団の新しい方々、心だけは真に新しく大正八年をお迎えなさい。8

○本月は学校が忙しいので、粗末なものになりました。今度からはまだまだきつとよくなります。お願いしたいのは、一度に紙が四五束位いるので、もし皆さんが月々金参銭宛費用をお出し下さるなら、もつとよい紙にせられます。どうか、心地よく、御出し下さい。さよなら。